

序 文

松井喜代司教授は、本年3月をもって定年により敬愛大学専任教授の職を退かれることになった。経済学部のエコン学会会員一同は、ご在職中の教授の多大なご功績にたいし、感謝と敬慕の念をこめて、ここに記念論文集を献呈するものである。

松井教授は、1924年千葉県に生誕され、1949年明治大学政治経済学部を御卒業と同時に同学部政治学（研究）助手となり、56年同講師を経て、61年に千葉敬愛短期大学助教授に就任された。66年には敬愛大学の創設と共に助教授に就任、77年に教授とされた。本学の教壇に立たれて30余年、教授は政治学一般理論、政治意識論、地方自治論、演習等を担当され、幅広い学殖に裏打ちされた重厚な講義を続けてこられた。また学問研究のみならず、兵役を経験され、政治的実践に参加された経験を持たれる教授の豊かな人間的情感にあふれる人柄にひかれて、多くの学生が教授の回りに集まることとなり敬愛教育に貢献された。

教授の学問的関心はその主著「東洋政治学要綱」に明らかなように東洋の政治思想の研究が中心とされていたようである。私のような門外漢にはその内容に立ち入って紹介する資格も能力もないが、ともあれ教授がシラバスで述べておられる以下のような議論は傾聴に値するものと言うべきであろう。教授は「最近、政治のシステムが断片的に論じられ」「政治についての概念がバラバラになっている」「専門分化が見られ・・・すべての領域や問題をひとわたり眺めるということは、きわめて困難なものとなっている」だから「政治を見る眼を養っていくことに重点をおいて講義をす

すめていく」と述べておられる。今日政治学に止まらず、各研究分野で部分論的に実証研究と称する個別研究が「断片的に」行われていることは少なくない。教授はこのような最近の動向への問題点を指摘され、ご自身の研究視点を明確に示された。これはすべての研究者への警鐘とも言えよう。

また教授は、略歴に示されているように、学内行政の面においても、学生部長としては8年間にわたりご活躍された。その間政治を理論的実践的に究明された教授は学内の体制が整備されていない時代であったが学生部体制の体系化に尽力されると共に、行動力豊かな教授は学生部担当の事業として教育後援会の方向づけと定着化に貢献された。また学内における柔道部長に止まらず千葉県学生柔道連盟理事をはじめ学内外を問わず学生部の活動領域について多面的に拡大に努められ、情熱的に行動された。

一方1987年4月にはこれまで休眠中であった敬愛大学経済研究所を改組復活した敬愛大学地域総合研究所（平成元年、敬愛大学経済文化研究所と改称し現在に至る）の所長として、本学の研究体制の確立に努められた。

本学創立30周年記念式典においては、実行委員長として教授ならではのプランをもって会を盛況にされたことは、その社会的活動の幅の広さと、お人柄に基づく交友関係の然からしむるところで私達の記憶に長く止まるものである。

更に教授の活動の多面性を示す一端としては、私の知る限りでは誠に若々しい行動力をもって学外では、67年より東京都中野区議会議員として2期8年にわたり政治を实践されたのをはじめ、地域社会においても千葉県公民館運営審議会委員（常任理事）など、現在なお多面的に参加・活躍されておられると伺っている。また、その他の活動としては、教授は詩吟と剣舞の大家として知

られており、昨秋は明鐘流吟詠会大会会長として盛大なる大会を主催された。折角のお招きを頂ながら学会出張のため出席できず残念に思ったことが改めて想起される。

教授はこれまで長い間私達に対し、同僚の先輩として惜しみのない援助と指導を与えて下さった。今教授が本学部を去られるのは誠に残念であり、惜別の情を禁じ得ないものがある。教授がいつまでもご壮健で第一線の研究者として益々ご活躍されることを祈念すると共に、今後とも私達後輩に変わらぬご指導を賜るよう期待するものである。

なおこの機会に、ご多忙のなか快く労作を寄せられた執筆者各位に対し厚く御礼を申し上げたい。

敬愛大学経済学部長
敬愛大学経済学会会長

中 村 智 一 郎